

鶴岡市の今後の学校の在り方について

令和8年9月29日
教育施設在り方検討室

1 これまでの学校適正配置の経過

(1) 鶴岡市学校適正配置基本計画(第一期 H23～H27)

- ・基準…H28までに複式学級の編制が想定される小学校 ⇒ 下表14小学校が検討対象校
- ・結果…湯田川・田川・朝日大泉・小堅・由良・大網・五十川・福栄・山戸・羽黒第四・加茂の11小学校が統合(①～⑪)

(2) 鶴岡市学校適正配置基本計画(第二期 H28～R2)

- ・基準…5年間連続して複式学級の編制が見込まれる学校 ⇒ 新規検討対象校なし
- ・結果…栄・長沼・羽黒第一の3小学校が統合(⑫～⑭)

検討対象校	統合相手校	新校名	統合年月	備考
①湯田川小学校	朝陽第四小学校	朝陽第四小学校	H26.4	旧鶴岡地域
②田川小学校				
③朝日大泉小学校	朝日小学校	あさひ小学校	H26.4	旧朝日地域
④小堅小学校	三瀬小学校	豊浦小学校	H27.4	旧鶴岡地域
⑤由良小学校				
⑥大網小学校	あさひ小学校	あさひ小学校	H28.4	旧朝日地域
⑦五十川小学校	温海小学校	あつみ小学校	H28.4	旧温海地域
⑧福栄小学校				
⑨山戸小学校				
⑩羽黒第四小学校	羽黒第三小学校	広瀬小学校	H28.4	旧羽黒地域
⑪加茂小学校	大山小学校	大山小学校	H29.4	旧鶴岡地域
⑫栄小学校	京田小学校	京田小学校	H30.4	旧鶴岡地域
⑬長沼小学校	藤島小学校	藤島小学校	H30.4	旧藤島地域
⑭羽黒第一小学校	羽黒第二小学校	羽黒小学校	H30.4	旧羽黒地域

1 これまでの学校適正配置の経過

◆児童:「学校が統合されましたが、どのように思いますか」に対する回答

【統合全般】

※第1期・第2期に学校統廃合を実施した14小学校の全児童及びその保護者を対象に、統合後1年が経過した時点で行ったアンケート

回答		件数	割合
1	良かった	1,455	69.1%
2	まあまあ良かった	462	21.9%
3	あまり良くなかった	74	3.5%

回答		件数	割合
4	良くなかった	27	1.3%
5	どちらでもない	78	3.7%
—	無回答	9	0.4%
合計		2,105	100.0%

◆保護者:「学校が統合したことについて、どのように思いますか」に対する回答

回答		件数	割合	自由記述の意見のまとめ
1	良かった	831	41.5%	・少子化を止めることは困難なので、学校の統合は仕方ないことだと思います。大切なのは、小規模校から来た児童のケアだと思います。迎え入れる側の学校は、新しい仲間を積極的に受け入れるために、もっと早い時期から交流を図ると、双方の意思疎通がスムーズになるのではないかと推察いたします。
2	どちらかと言えば良かった	581	29.0%	
3	どちらかと言えば良くなかった	50	2.5%	・地区に学校があった時は、学校行事に地区の人達も見に来てくれて、地区の繋がりを感したが、やはり学校が無くなった分、地区の方々との繋がりが減った感じがする。
4	良くなかった	31	1.5%	
5	どちらでもない	444	22.2%	—
-	無回答	66	3.3%	—
合計		2,003	100.0%	—

◆教職員:「児童の様子の変化」に対する回答（自由記述）

- ・大人数の環境の中で、自ら考え自ら行動し、社会性が養われた。やはり「環境が子どもを育てる」と実感した。
- ・一番の成果は、選択肢が増えたこと。⇒多様な考え、児童会、クラブ活動、スポ少、様々な教育活動等
- ・小規模で学校運営するより、ある程度の大きさの方が「子どもの育ち」があるというところを、ぜひ打ち出していきたい。

1 これまでの学校適正配置の経過

◆児童:「教室での様子について、なにか変わりましたか」に対する回答

【学習面】

回答		件数	割合
1	勉強が楽しくなった	1,022	33.8%
2	いろいろな意見が出るようになった	864	28.6%
3	自分の意見が言いにくくなった	178	5.9%

※複数回答あり

回答		件数	割合
4	さわがしくなった	590	19.5%
5	今までと変わらない	363	12.0%
—	無回答	6	0.2%
合計		3,023	100.0%

◆保護者:「統合する前と統合した後で、お子様の学習への意欲に変化は見られますか」に対する回答

回答		件数	割合	自由記述の意見のまとめ
1	良い変化が見られる	267	13.3%	・競争相手が増えたことで、多様な考えや意見をより多く知る事が出来ている上、ライバル心も芽生え、個人の能力が上がっている。 ・大人数に合わせる事を学べた反面、うまくできなくても目立たないので、逆に自分のペースでできた様子。 ・少ない人数での授業は丁寧な反面、体育等でかわいそうということもありました。統合により多くの人との関わりが持てるので、良かったと思っています。
2	どちらかというとも良い変化が見られる	447	22.3%	
3	どちらかというとも悪い変化が見られる	82	4.1%	
4	悪い変化が見られる	21	1.0%	・小規模校の時は常にみんなの点数がわかり、みんながどの位勉強しているのかが把握できた。今は勉強する子、しない子、色々な友達がいることがわかり、手を抜いている。
5	特に変化はない	1,154	57.6%	
—	無回答	32	1.6%	—
合計		2,003	100.0%	—

◆教職員:「児童の様子の変化」に対する回答（自由記述）

- ・より多くの人数で学ぶ良さを感じています。授業中の発表につながりが生まれ、教え合う雰囲気により高まりました。
- ・学級対抗で競い合う体験は小規模校出身の児童にとっては初めてであった。良い経験だと考える。

1 これまでの学校適正配置の経過

◆児童:「友達について、何か変わりましたか」に対する回答

【交友面】

回答		件数	割合
1	新しい友達ができる	1,534	50.6%
2	友達が多くなった	1,267	41.8%
3	友達が少なくなった	24	0.8%

回答		件数	割合
4	今までと変わらない	201	6.6%
—	無回答	7	0.2%
合計		3,033	100.0%

※複数回答あり

◆保護者:「お子様の人間関係(友達関係)に影響が見られましたか」に対する回答

回答		件数	割合	自由記述の意見のまとめ
1	良い影響が見られた	465	23.2%	・多くの友達と接する事で、色々な考え方をするようになった。視野が広がった。大人数の中で自分の在り方を考えるようになった。 ・最初は統合に反対でした。しかし、子どもの様子を見ると、逆にもっと早く統合した方がよかったと思います。人数が少なく同じ学年の友達があまりいなかったの、同じ学年の友達と遊んでいるのを見ると、特に良かったと思います。 ・今までは限られた人数の環境で、嫌なことがあっても逃げられないし、どうしようもなかったが、今は人数が増えて、自分と合う子ができていること。 ・少人数での活動だと、自分と同じ事を楽しむ友達を探すのが大変そうだった。今はたくさんの友達ができ、自分の目標と同じ所を目指している友達も見つかり、やる気がでている様子。
2	どちらかという 良い影響が見られた	576	28.8%	
3	どちらかという 悪い影響が見られた	69	3.4%	
4	悪い影響が見られた	12	0.6%	・一クラスの人数が増え(約5倍)、勉強面でも生活面でも、子供本人の負担はかなり大きいと思う。本人も「前が良かった」ともらす事がありました。
5	特に影響は感じない	844	42.2%	
-	無回答	35	1.7%	
合計		2,001	100.0%	—

◆教職員:「児童の様子の変化」に対する回答 (自由記述)

- ・授業でライバルが増えた。運動や勉強で競い合える相手が増えた。また、勉強でもお手本となるような人が増えた。
- ・人数が増えたことで、交友関係が広がりよかった。単学級で固定しがちな人間関係により化学変化がおこった。

1 これまでの学校適正配置の経過

◆児童:「学校行事について、何か変わりましたか」に対する回答

【行事面】

回答		件数	割合
1	行事が楽しくなった	1,460	69.0%
2	行事がやりにくくなった	81	3.8%

回答		件数	割合
3	今までと変わらない	566	26.8%
—	無回答	8	0.4%
合計		2,115	100.0%

◆保護者:「学校行事について、どのように感じられましたか」に対する回答

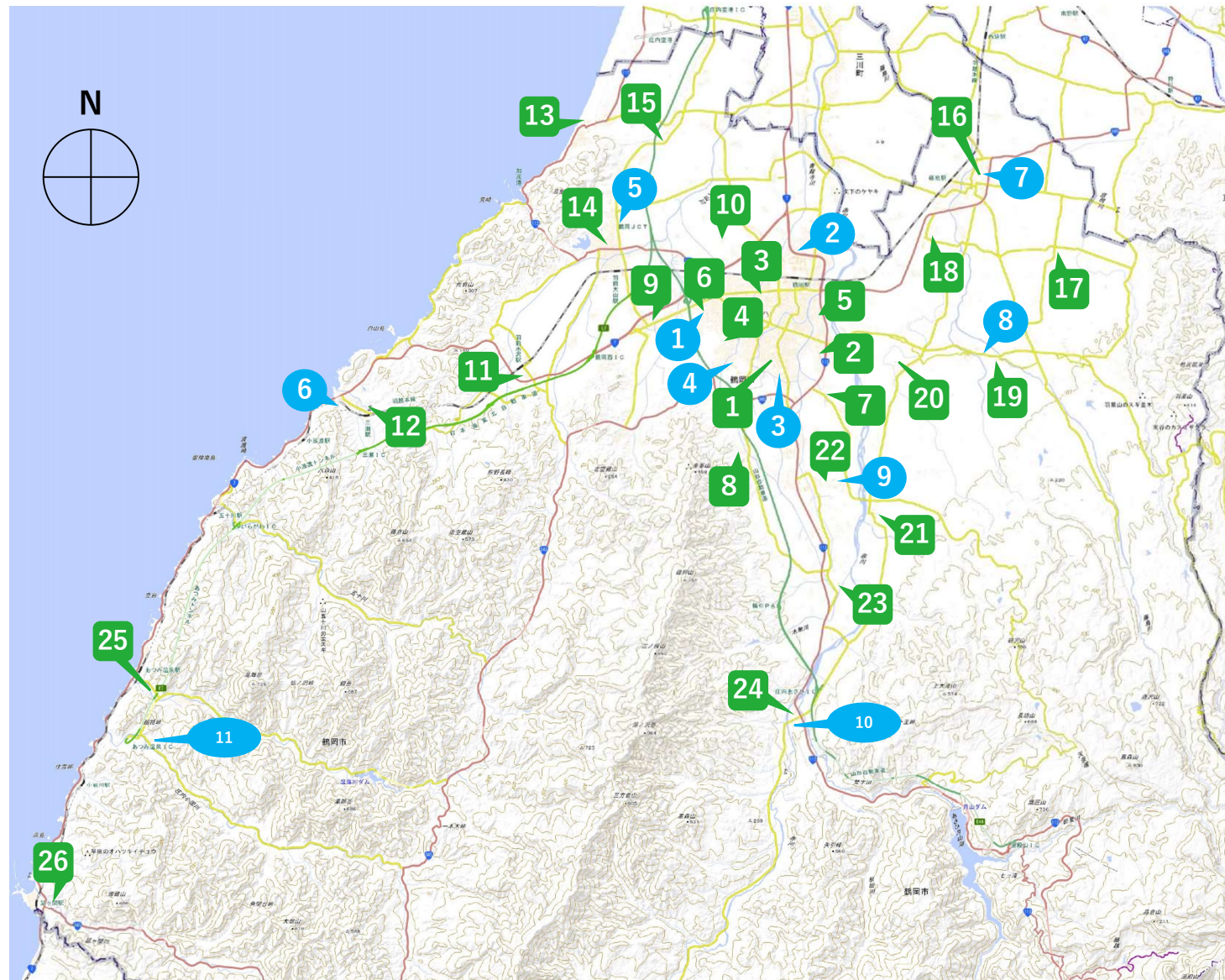
回答		件数	割合	自由記述の意見のまとめ
1	人数が増えて活発になった	666	33.2%	・小規模校の良さもあるとは思いますが、一学年一クラスとか、まして複式学級ではスポーツ大会や学習発表会など、様々な活動で切磋琢磨する機会を喪失していると考えます。
2	子どもが積極的に参加するようになった	62	3.1%	・苦手だった人前での発表など、大勢の中で練習などをくり返すうち、少し楽しくてやれるようになったと思う。また、大勢でまとまってやることで、皆と合わせるという事も学べたのではないかと考えている。
3	人数が増えて大変になった	138	6.9%	・小規模校の時は、得意技の発表等、全校の人達の前で発表する事が多くあり、また、行事等も自分達でやろうという意欲があったように思いますが、今は、児童数が多くなったので、人任せの風潮を感じます。もう少し発表の機会が増えたらいいと思います。
4	子どもの活躍の場が少なくなった	122	6.1%	
5	今までと変わらない	933	46.5%	—
6	その他	57	2.8%	—
-	無回答	28	1.4%	—
合計		2,006	100.0%	—

◆教職員:「児童の様子の変化」に対する回答（自由記述）

- ・小規模校出身児童にとって、学校生活全般(特に行事に向けての準備など)において、集団生活を学ぶ絶好の場となったと感じる。
- ・大規模校出身児童にとっては、特に体育祭での小規模校出身児童のまとまりの良さは刺激になったと思う。

2 本市の現状認識（内的要因） その1

- (1) 広さ…東西約43km・南北約56km 面積1311.51km²(東北で最も広い面積)
 (2) 学校数…小学校26校、中学校11校を設置
 (3) 地理的問題…終端部の集落等では既に通学距離が20km超のケースもある



1	朝 陽 第 一 小 学 校
2	朝 陽 第 二 小 学 校
3	朝 陽 第 三 小 学 校
4	朝 陽 第 四 小 学 校
5	朝 陽 第 五 小 学 校
6	朝 陽 第 六 小 学 校
7	斎 小 学 校
8	黄 金 小 学 校
9	大 泉 小 学 校
10	京 田 小 学 校
11	上 郷 小 学 校
12	豊 浦 小 学 校
13	湯 野 浜 小 学 校
14	大 山 小 学 校
15	西 郷 小 学 校
16	藤 島 小 学 校
17	東 栄 小 学 校
18	渡 前 小 学 校
19	羽 黒 小 学 校
20	広 瀬 小 学 校
21	櫛 引 東 小 学 校
22	櫛 引 西 小 学 校
23	櫛 引 南 小 学 校
24	あ さ ひ 小 学 校
25	あ つ み 小 学 校
26	鼠 ケ 関 小 学 校
1	鶴 岡 第 一 中 学 校
2	鶴 岡 第 二 中 学 校
3	鶴 岡 第 三 中 学 校
4	鶴 岡 第 四 中 学 校
5	鶴 岡 第 五 中 学 校
6	豊 浦 中 学 校
7	藤 島 中 学 校
8	羽 黒 中 学 校
9	櫛 引 中 学 校
10	朝 日 中 学 校
11	温 海 中 学 校

※国土地理院ウェブサイト・地理院地図（電子国土Web）標準地図をもとに作成

2 本市の現状認識（内的要因） その2

小学校区毎の出生数(H23～R7)

学校名	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	計
	R7生	R6生	R5生	R4生	R3生	R2生	H31・R1生	H30生	H29生	H28生	H27生	H26生	H25生	H24生	H23生	
	(R14入学)	(R13入学)	(R12入学)	(R11入学)	(R10入学)	(R9入学)	(小1年)	(小2年)	(小3年)	(小4年)	(小5年)	(小6年)	(中1年)	(中2年)	(中3年)	
1 朝 陽 一 小	48	48	40	68	62	54	73	87	72	82	103	94	83	88	86	1,088
2 朝 陽 二 小	32	33	43	38	38	41	42	54	27	37	41	40	57	47	49	619
3 朝 陽 三 小	85	88	86	89	85	86	91	93	82	98	90	92	96	100	108	1,369
4 朝 陽 四 小	35	43	53	62	73	65	78	90	91	87	91	94	89	79	88	1,118
5 朝 陽 五 小	39	38	51	61	53	44	47	50	62	64	68	63	55	68	64	827
6 朝 陽 六 小	68	60	49	59	71	76	81	65	77	81	98	87	114	103	116	1,205
7 斎 小	7	11	11	14	13	15	22	16	18	19	22	14	25	14	25	246
8 黄 金 小	5	3	14	10	12	11	7	9	12	9	15	16	9	7	16	155
9 大 泉 小	15	10	11	10	16	14	19	23	13	19	24	28	20	22	33	277
10 京 田 小	16	14	22	18	16	22	22	21	21	16	23	14	28	21	21	295
11 上 郷 小	8	4	4	7	8	12	9	7	16	12	11	18	15	13	23	167
12 豊 浦 小	7	4	6	10	11	6	10	7	12	8	14	16	14	14	22	161
13 湯 野 浜 小	6	10	12	9	14	14	9	13	11	13	13	11	18	24	18	195
14 大 山 小	18	34	33	25	36	42	42	50	49	47	51	54	51	44	53	629
15 西 郷 小	5	5	4	13	11	13	12	10	4	7	15	12	10	17	18	156
16 藤 島 小	24	25	36	29	48	27	38	33	39	44	45	44	46	48	40	566
17 東 栄 小	3	3	2	5	5	2	7	11	6	10	11	14	10	12	8	109
18 渡 前 小	3	4	6	11	5	7	9	8	12	3	10	6	10	11	17	122
19 羽 黒 小	4	11	11	25	12	20	28	24	22	29	33	32	35	31	40	357
20 広 瀬 小	8	16	19	20	17	13	26	17	27	23	27	17	20	24	32	306
21 櫛 引 東 小	6	4	5	4	7	6	8	7	8	13	12	8	13	13	11	125
22 櫛 引 西 小	11	17	8	26	12	25	27	23	38	30	30	23	35	30	27	362
23 櫛 引 南 小	3	3	4	4	8	6	5	7	12	10	17	8	12	9	15	123
24 あ さ ひ 小	12	13	12	11	12	12	10	10	12	19	21	18	17	18	22	219
25 あ つ み 小	5	3	8	8	11	17	5	14	14	15	16	17	23	24	25	205
26 鼠 ケ 関 小	5	6	7	7	12	6	7	7	3	11	7	6	10	12	9	115
計	478	510	557	643	668	656	734	756	760	806	908	846	915	893	986	11,116

2 本市の現状認識（内的要因） その2

中学校区毎の出生数(H23～R7)

学校名		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	計
		R7生	R6生	R5生	R4生	R3生	R2生	H31・R1生	H30生	H29生	H28生	H27生	H26生	H25生	H24生	H23生	
		(R14入学)	(R13入学)	(R12入学)	(R11入学)	(R10入学)	(R9入学)	(小1年)	(小2年)	(小3年)	(小4年)	(小5年)	(小6年)	(中1年)	(中2年)	(中3年)	
1	鶴岡一中	111	100	94	97	115	139	135	121	139	141	168	158	195	167	219	2,099
2	鶴岡二中	109	100	115	132	117	104	122	121	123	134	132	126	119	144	137	1,835
3	鶴岡三中	92	95	108	130	125	121	144	166	129	147	181	164	174	156	176	2,108
4	鶴岡四中	46	57	67	77	90	76	90	107	100	102	105	112	103	95	97	1,324
5	鶴岡五中	29	49	49	47	61	69	63	73	64	67	79	77	79	85	89	980
6	豊浦中	7	4	6	10	11	6	10	7	12	8	14	16	14	14	22	161
7	藤島中	30	32	44	45	58	36	54	52	57	57	66	64	66	71	65	797
8	羽黒中	12	27	30	45	29	33	54	41	49	52	60	49	55	55	72	663
9	櫛引中	20	24	17	34	27	37	40	37	58	53	59	39	60	52	53	610
10	朝日中	12	13	12	11	12	12	10	10	12	19	21	18	17	18	22	219
11	温海中	10	9	15	15	23	23	12	21	17	26	23	23	33	36	34	320
計		478	510	557	643	668	656	734	756	760	806	908	846	915	893	986	11,116

2 本市の現状認識（内的要因） その3

小学校児童数推移予測(R8～R14)

※各学区内に居住している人数による推計。実際の児童数・学級数と異なる場合がある。

	R8		R9		R10		R11		R12		R13		R14		R8⇒R14 増減率
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	
朝陽一小	19	511	18	471	16	430	16	416	15	384	14	345	13	320	63%
朝陽二小	11	241	11	242	11	239	11	240	12	256	11	235	10	225	93%
朝陽三小	18	546	18	540	18	535	18	526	18	530	18	525	18	519	95%
朝陽四小	18	531	17	502	17	484	16	459	15	421	14	374	13	331	62%
朝陽五小	13	354	13	335	12	320	12	317	12	306	12	294	12	286	81%
朝陽六小	17	489	17	478	17	451	16	429	15	401	15	396	15	383	78%
斎小	6	111	6	112	6	103	6	98	6	91	6	86	6	71	64%
黄金小 (複式学級数)	6	68	5	63	5	60	5	61	5	63	6	57	5	55	81%
	—		(1)		(1)		(1)		(1)		—		(1)		
大泉小	6	126	6	112	6	104	6	95	6	93	6	80	6	76	60%
京田小	6	117	6	125	6	118	6	120	6	121	6	114	6	108	92%
上郷小 (複式学級数)	6	73	5	67	5	64	5	59	4	47	4	44	4	43	59%
	—		(1)		(1)		(1)		(2)		(2)		(2)		
豊浦小 (複式学級数)	6	67	6	57	5	54	5	56	5	50	4	47	5	44	66%
	—		—		(1)		(1)		(1)		(2)		(1)		
湯野浜小	6	70	6	73	6	74	6	70	6	71	6	68	6	65	93%
大山小	12	293	12	281	12	266	11	244	10	228	10	212	9	188	64%
西郷小 (複式学級数)	5	60	5	61	5	57	5	63	6	63	6	58	5	51	85%
	(1)		(1)		(1)		(1)		—		—		(1)		

2 本市の現状認識（内的要因） その3

小学校児童数推移予測(R8～R14)

※各学区内に居住している人数による推計。実際の児童数・学級数と異なる場合がある。

	R8		R9		R10		R11		R12		R13		R14		R8⇒R14 増減率
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	
藤島小	11	243	10	226	10	229	9	214	9	211	9	203	8	189	78%
東栄小 (複式学級数)	5	59	5	47	4	41	5	36	4	32	3	24	3	20	34%
	(1)		(1)		(2)		(1)		(2)		(3)		(3)		
渡前小 (複式学級数)	4	48	5	49	4	44	5	52	4	46	4	42	4	36	75%
	(2)		(1)		(2)		(1)		(2)		(2)		(2)		
羽黒小	6	168	6	156	6	135	6	131	6	120	6	107	6	83	49%
広瀬小	6	137	6	133	6	123	6	120	6	112	6	111	6	93	68%
櫛引東小 (複式学級数)	5	56	5	54	4	49	4	40	4	37	4	34	4	32	57%
	(1)		(1)		(2)		(2)		(2)		(2)		(2)		
櫛引西小	7	171	7	173	7	155	7	151	6	121	6	115	6	99	58%
櫛引南小 (複式学級数)	6	59	5	57	5	48	4	42	3	34	3	30	3	28	47%
	—		(1)		(1)		(2)		(3)		(3)		(3)		
あさひ小	6	90	6	84	6	75	6	67	6	67	6	70	6	72	80%
あつみ小 (複式学級数)	6	81	6	81	6	76	6	69	6	63	5	52	4	52	64%
	—		—		—		—		—		(1)		(2)		
鼠ヶ関小 (複式学級数)	4	41	4	41	4	46	4	42	5	46	4	45	5	43	105%
	(2)		(2)		(2)		(2)		(1)		(2)		(1)		
児童数合計	4,810		4,620		4,380		4,217		4,014		3,768		3,512		73%

※湯野浜小と羽黒小では、R15年度に2・3年生の組合せにおいて、複式学級が編制される見込み

2 本市の現状認識（内的要因） その3

中学校生徒数推移予測(R8～R14)

※各学区内に居住している人数による推計。実際の生徒数・学級数と異なる場合がある。

	R8		R9		R10		R11		R12		R13		R14		R8⇒R14 増減率 (補正前)	R14 致道館中 補正※	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数		学級数	生徒数
鶴岡一中	18	581	16	520	16	521	15	467	14	448	13	401	12	395	68%	12	353
鶴岡二中	13	400	13	389	12	377	12	392	12	389	12	378	12	366	92%	12	321
鶴岡三中	16	506	15	494	16	519	16	492	15	457	14	442	14	439	87%	13	400
鶴岡四中	9	295	10	310	10	320	10	319	9	307	10	309	10	297	101%	9	273
鶴岡五中	9	253	9	241	9	235	8	223	7	210	7	204	7	200	79%	6	182
豊浦中	3	50	3	44	3	44	3	38	3	34	3	27	3	29	58%	3	26
藤島中	7	202	7	201	6	196	6	187	6	180	6	166	6	163	81%	6	148
羽黒中	7	182	6	159	6	164	6	161	6	161	6	142	6	144	79%	6	135
櫛引中	6	165	6	151	6	158	6	151	6	170	6	148	6	135	82%	5	126
朝日中	3	57	3	53	3	56	3	58	3	52	3	41	3	32	56%	3	26
温海中	4	103	4	92	3	79	3	72	3	66	3	64	3	50	49%	3	44
生徒数合計	2,794		2,654		2,669		2,560		2,474		2,322		2,250		81%	2,034	

※「R14補正」とは、鶴岡市内小学校から致道館中に進学する生徒を年間約70人とし、各中学校の生徒数を基に按分して減じたもの 11

2 本市の現状認識（内的要因） その3

中学校生徒数推移予測(R15～R20)

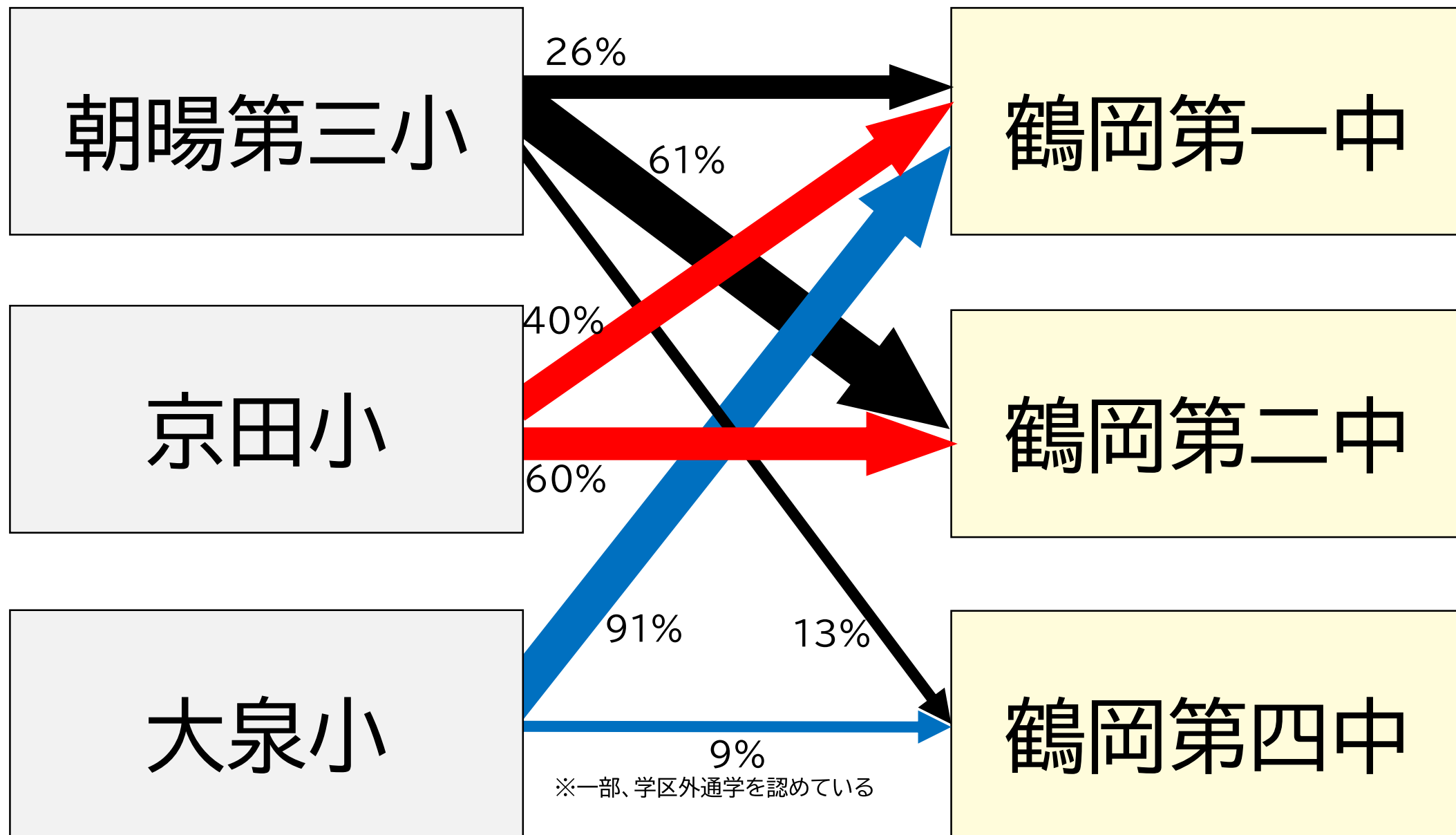
※各学区内に居住している人数による推計。実際の生徒数・学級数と異なる場合がある。

	R15		R16		R17		R18		R19		R20		R8⇒R20 増減率 (補正前)	R20 致道館中 補正※	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数		学級数	生徒数
鶴岡一中	12	395	12	389	11	351	10	306	9	291	10	305	52%	9	263
鶴岡二中	11	347	11	343	11	353	12	364	11	347	11	324	81%	9	279
鶴岡三中	14	431	13	390	12	376	12	363	11	333	10	295	58%	9	256
鶴岡四中	10	273	9	256	9	243	8	234	7	201	6	170	58%	6	146
鶴岡五中	7	205	6	193	6	177	6	157	6	145	5	127	50%	5	109
豊浦中	3	23	3	27	3	27	3	27	3	20	3	17	34%	3	14
藤島中	6	142	6	148	6	139	6	147	5	121	4	106	52%	4	91
羽黒中	5	128	4	116	4	107	4	104	4	102	3	69	38%	3	60
櫛引中	6	114	5	104	4	98	3	78	3	75	3	61	37%	3	52
朝日中	3	32	3	34	3	35	3	35	3	36	3	37	65%	3	31
温海中	3	56	3	58	3	61	3	53	3	39	3	34	33%	3	28
生徒数合計	2,146		2,058		1,967		1,868		1,710		1,545		55%	1,329	

2 本市の現状認識（内的要因） その4

複数の中学校に進学する小学校の状況

※パーセントは、各小学校から各中学校に進学する見込みの割合(R8.4.1現在の0～14歳人口から算出)



3 学校適正配置の社会的要請（外的要因）

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引(R8.8 文部科学省)

(1)学校規模の適正化が課題となる背景

・小中学校が過度に小規模化したり教育条件への影響が出たりすることが懸念される。(中略) 家庭や地域における子供の社会性育成機能が弱まっているため、学校が小規模であることに伴う課題がかつてよりも一層顕在化している。(中略) 小規模校には、個別指導が行いやすい等の利点がある一方、社会性の育成に制約が生じることをはじめ、教育指導上多くの課題が存在している。

(2)学校規模の適正化に関する基本的な考え方

・学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としている。

・学校では、(中略) 児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。そうした教育を十全に行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられます。このようなことから、一定の学校規模を確保することが重要となります。

・学校規模の適正化の検討は、(中略) 児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に据え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきものです。



市は、主体的な検討を行うことが求められています

4 鶴岡市の目指す学校教育 ～ 鶴岡らしい学校教育の継承と発展 ～

鶴岡市教育目標 「ふるさと鶴岡を愛し未来をひらく、いのち輝く人づくり」

1 ふるさと鶴岡を愛し ⇒ 地域の良さを語り、よく関わり、未来づくりに参画する子ども

- 地域の良さを理解し、自分の言葉で語れる子ども
- 地域と積極的に関わり、学びを深める子ども
- 地域の課題を知り、地域の未来づくりに参画する子ども

2 未来をひらく ⇒ 自ら学び考え、主体的に挑戦し、共に新たな価値を創り出そうとする子ども

- 夢や目標をもち、その実現に向けて粘り強く努力する子ども
- 課題を見つけ、自ら考え判断し、解決しようとする子ども
- 多様な人と協働しながら、新しい発想や価値を生み出そうとする子ども

3 いのち輝く ⇒ 自分と他者の命や人権を大切にし、心身ともに健やかに生きる子ども

- 自分を大切にし、自分らしさを発揮する子ども
- 思いやりの心を持ち、互いの違いや個性を尊重する子ども
- 心身の健康づくりに努め、たくましく生きる子ども

4 鶴岡市の目指す学校教育

～ 鶴岡らしい学校教育の継承と発展 ～

<藩校致道館教育>(学力向上)

1 自分で学び進める学習で学力向上

- 「子どもが主体的に学ぶ」授業への改善
- I C Tを効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実
- 家庭学習の習慣形成と質的な充実

<小中連携教育>(自立・共生)

2 小中一貫教育とCSで義務教育の充実

- 各中学校ブロックごとに目標や目指す子ども像を共有し、課題解決のための重点的な取組を推進
- 学校運営協議会の熟議により、教育活動の充実を図り、地域とともにある学校づくりを推進

<地域と連携した特色ある教育活動> (地域愛着)

3 特色ある教育活動と探究学習の充実

- 特色ある教育活動の持続可能な継続・充実
- 地域の良さや鶴岡の強み(食文化・日本遺産・庄内藩・先端研・海洋教育等)を探究する学習の充実

<特別支援教育>(共生社会)

4 特別支援教育の充実

- 教育的ニーズに応じた指導・支援の充実
- 校内の支援体制と外部連携の充実
- 専門性を生かした相談支援体制の整備
- 教職員の専門性向上と研修の充実

<課題への対応>いじめ・不登校対策/部活動の地域展開/働き方改革/学校の在り方

5 鶴岡市の目指す学校教育を実現する学校規模

<小学校> 6～18学級 複式学級なし(標準)

- ◆多様な考えに触れ、協働的な学びが充実する規模が必要
- ◆探究的な学びを支える多様な学級・集団編成が可能な規模が必要
- ◆児童の社会性を育む、多様な関わりを生む規模が必要
- ◆集団的学習や活動、行事での教育効果が高まる規模が必要
- ◆教科担任制やチーム担任制が確保できる教員の配置が必要
(教職員定数は学級数で決まる)
- ◆小学校は地域づくりとの関わりが深いことから、中学校区に1校以上は必要

<中学校> 6～18学級 複式学級なし(標準)

- ◆多様な考えに触れ、協働的な学びが充実する規模が必要
- ◆探究的な学びを支える多様な学級・集団編成が可能な規模が必要
- ◆人間関係の固定化を防ぎ、社会性を育むクラス替えのできる規模が必要
- ◆集団的学習や活動、行事での教育効果が高まる規模が必要
- ◆クラス同士で切磋琢磨する活動、多様な生徒会活動や部活動を実現する規模が必要
- ◆教科担任制・教科指導の専門性が確保できる教員の配置が必要
(教職員定数は学級数で決まる)

5 鶴岡市の目指す学校教育を実現する学校規模

小規模校・複式学級のメリット・デメリット ※「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」より

<メリット>

- ① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる
- ③ 様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる
- ④ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる
- ⑤ 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行いやすい

<デメリット>

- ① 集団の中で、多様な考えに触れる機会や切磋琢磨する機会が少なくなりやすい
- ② 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ③ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- ④ 加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい
- ⑤ 複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい、教員に特別な指導技術が求められる

6 鶴岡市学校の在り方検討委員会の概要(案)

「鶴岡市学校の在り方検討委員会」の所掌事項と社会的使命や方向性

所掌事項

- ・「鶴岡市今後の学校の在り方についての計画」(第三期計画)の策定方法＝策定フロー
- ・検討対象校基準の策定
- ・各地域委員会の報告を受けての計画案討議 ⇒ (最終的に)第三期計画案提言

社会的使命

Mission

使命・果たすべき
役割

・児童生徒一人一人が適正規模での教育を遍く受けられる環境の整備

・学校と地域が一体となって「鶴岡市のめざす教育」を進められる学校の在り方を考えること

Vision

目指す姿・将来像

・適正規模の学校での集団生活を通じ、道徳性や社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質の涵養に適う適正配置

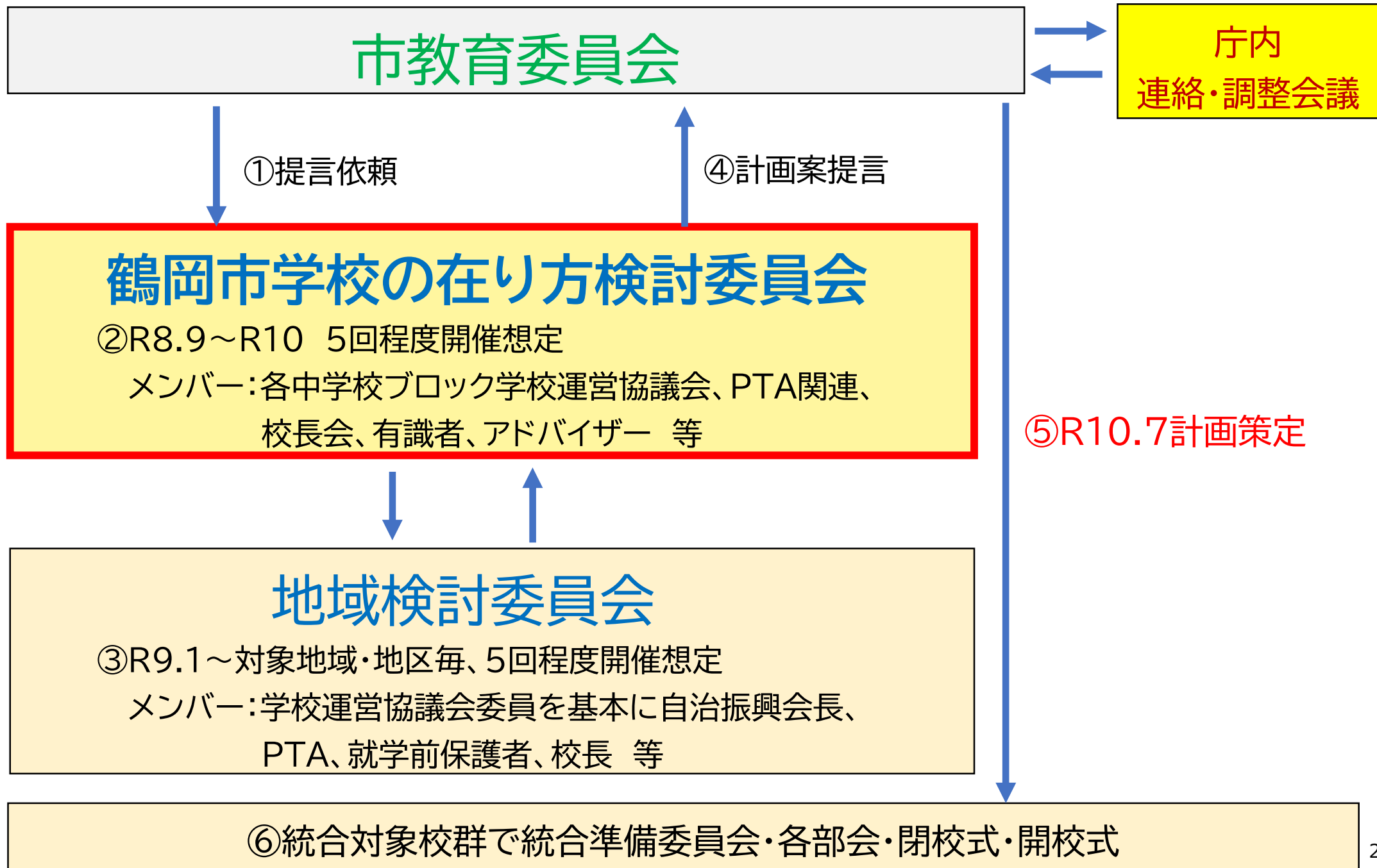
・持続可能な自治体経営の下での分相応な教育施設整備のサイクル形成

Value

行動指針・判断基準

・望ましい学校規模や教育委員会の考え方も示すが、地域の意見に配慮すること
・学校の小規模化に伴う課題は、学校や地域の努力だけでは解決不可能なものが多々あることを念頭に置き、児童生徒の教育環境改善の観点を中心に据えること

7 第三期計画策定フロー(案)



8 検討対象校となる学校の基準(案)

第三期計画における基準

令和14年度までに、次の①または②に該当する学校

①6学級未満となり、その後においても6学級以上となる見込みがない

②複式学級が編制され、その後においても解消の見込みがない

※ただし、中学校が閉校した場合、地域の要望があれば、当該中学校ブロック内に小学校1校は残す

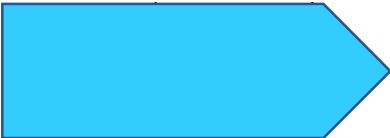
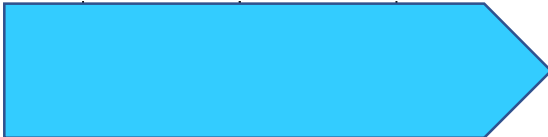
- 参考
- ＜学校教育法施行規則第41条＞ 小・中学校ともに 12～18学級
※地域の実態や特別な事情がある場合には、これによらないこともできる
 - ＜鶴岡市第一期・第二期適正配置基本計画における望ましい学校規模＞
 - ・小学校 6～24学級、1学級15～20名以上、複式学級なし
 - ・中学校 3～18学級、1学級15～20名以上、複式学級なし

豊浦・櫛引・朝日・温海 の4中学校

黄金・上郷・豊浦・湯野浜・西郷・羽黒・櫛引東・櫛引南・あつみ・鼠ヶ関

(・東栄・渡前) の12小学校 が該当

9 今後の全体スケジュール(イメージ)

年 度		R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
第 三 期	計画策定										
	第三期対象校 統合準備・閉校・開校										
第 四 期	計画策定										
	第四期対象校 統合準備・閉校・開校										

10 第三期計画策定スケジュール

	R8年度										R9年度												R10年度					
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7		
教育委員会	着手教委報告				第1回教委報告			第2回教委報告				第3回教委報告												第4回教委報告	パブコメ	教委議決・策定		
学校の在り方検討委員会				第1回会議 9/29	第2回会議 10/29		第3回会議				第4回会議 (中間報告)											第5回会議						
地域検討委員会							各地域(各校) 1回から5回程度を想定																					
庁内連絡・調整会議		第1回会議 8/6			第2回会議 10/19				第3回会議													第4回会議						

23